

幼稚園

令和7年度

教育研究員研究報告書

幼稚園

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究の内容	3
	1 身近な環境に主体的に関わる幼児の姿について	
	2 幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿を捉え、 「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」を明らかにすることについて	
IV	検証保育	4
	1 3年保育 4歳児 9月中旬	
	2 3年保育 3歳児 10月下旬	
	3 3年保育 5歳児 11月下旬	
V	研究の成果	11
VI	今後の課題	13

研究主題

身近な環境に主体的に関わる幼児の育成 ～幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿に着目して～

I 研究主題設定の理由

幼稚園教育要領第1章総則 第1「幼稚園教育の基本」では、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、(中略) 幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、幼稚園教育要領解説では、「(前略) 幼児期の教育においては、幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。」¹とあり、幼児が主体的に環境に関わり、十分に活動し、充実感や満足感を味わうことが重要であると示されている。

加えて、中央教育審議会が令和7年7月4日にまとめた「幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について」では、遊びや生活に関する現状と課題として、「意図的に用意しなければ、幼児の発達に必要な、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を十分に確保することが困難になっている。」²と示されており、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験の一層の充実が求められている。

このような課題を背景に研究主題を検討するにあたり、各園の幼児の実態等を協議したところ、「様々なことを体験できる機会がある一方で、体験活動に対して受け身になっている幼児が多い。」「遊びの楽しさや見通しが見いだせないなどにより、遊びが続きにくい姿がある。」

「既成の玩具で遊ぶ経験が多く、身の回りにあるものを取り入れて遊んだり、自分なりに工夫したりしながら遊ぶ姿が少ない。」という共通の課題が挙げられた。幼稚園教育要領解説第2章 第2節3「身近な環境との関わりに関する領域『環境』」では、「(前略) まず何より環境に対して、親しみ、興味をもって積極的に関わるようになることが大切である。さらに、ただ単に環境の中にあるものを利用するだけでなく、そこで気付いたり、発見したりしようとする環境に関わる態度を育てることが大切である。」と示されている。

これらのことを踏まえ、本部会では、「幼児が自分なりに思いや考えを出して遊ぶことを面白いと感じ、やりたいことを実現できた満足感や充実感を感じてほしい」と考え、研究主題を「身近な環境に主体的に関わる幼児の育成」とし、その手だてとして、副題を「幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿に着目して」と題し、教師の援助と環境の工夫について研究することにした。

¹幼稚園教育要領解説第1章 第1節2(1)「環境を通して行う教育の意義」から抜粋

²「幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について」(文部科学省中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会 令和7年7月4日) P. 3

II 研究構想図

<幼稚園教育要領>

○第1章総則 第1 幼稚園教育の基本

「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。」

○第1章総則 第2 3 (1) 健康な心と体

「幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。」

<幼稚園教育要領解説>

○第1章 第1節 2 (1) 環境を通して行う教育の意義

「幼児期の教育においては、幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって、環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。」

○第2章 第2節 3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

「まず何より環境に対して、親しみ、興味をもって積極的に関わるようになることが大切である。さらに、ただ単に環境の中にあるものを利用するだけでなく、そこで気付いたり、発見したりしようとする環境に関わる態度を育てることが大切である。」

<令和7年度東京都教育研究員 共通研究テーマ>

「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」

<課題となる幼児の実態>

- 様々なことを体験できる機会がある一方で、体験活動に対して受け身になっている幼児が多い。
- 遊びの楽しさや見通しが見いだせないなどにより、遊びが続きにくい姿がある。
- 既成の玩具で遊ぶ経験が多く、身の回りにあるものを取り入れて遊んだり、自分なりに工夫したりしながら遊ぶ姿が少ない。

<部員の願い>

- 身近な環境と関わる経験を通して様々なことを感じ、気付いたり発見したりすることを楽しんでもほしい。
- 自分なりに思いや考えを出したり、新しいアイデアを生み出したりして遊ぶことを面白いと感じてほしい。
- やりたいことを実現しようと試行錯誤する楽しさを味わってほしい。

<目指す幼児像>

様々な思いや考えをもって環境に関わりながら遊ぶことを楽しむ幼児

<研究主題>

身近な環境に主体的に関わる幼児の育成
～幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿に着目して～

<研究の仮説>

教師が、思いや考えをもって自分なりに環境に関わる幼児の姿を踏まえるとともに、幼児の実態や興味・関心を適切に捉え、それらに応じた援助と環境の工夫を行うことで、様々な思いや考えをもって主体的に環境に関わりながら遊ぶ幼児が育つだろう。

<研究の内容>

- 1 幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿を捉え、「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」を明らかにする。
- 2 「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」を踏まえ、幼児の実態及び興味・関心を的確に捉え、各過程においてどのような教師の援助と環境の工夫が必要かを探る。

Ⅲ 研究の内容

1 身近な環境に主体的に関わる幼児の姿について

幼児が主体的に環境と関わることについては、幼稚園教育要領解説には以下のように示されている。

幼稚園教育要領解説第1章 第1節 4「計画的な環境の構成」

「(前略) このようにしてあらかじめ構成された環境の下で、幼児は主体的に環境と関わり、活動を展開する。主体的に関わるとは、幼児なりに思いや願いをもち続け、関わっていくことである。幼児の興味や関心は次々と変化し、あるいは深まり、発展していく。(中略) 教師は幼児の活動の流れや心の動きに即して、常に適切なものとなるように、環境を再構成していかなければならないのである。(下線は本研究による)

このことから、幼児が環境に主体的に関わる中で、興味や関心が変化したり、深まったりしていくことが分かる。本研究では、幼児なりに思いや願いをもち続け、環境と関わっていく姿を、「身近な環境に主体的に関わる姿」として捉え、幼児が思いや考えをもち、自分なりに環境に関わる姿に着目して研究を進めていくこととした。

2 幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿を捉え、「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」を明らかにすることについて

(1) 幼児が環境との関わり方を深めていくことについて

幼稚園教育要領解説第1章 第1節2(1)「環境を通して行う教育の意義」には、以下のように示されている。

(前略) 幼児は、環境とのよりよいまたはより面白い関わり方を見いだしたり、関連性に気付き意味付けたり、それを取り込もうとして更に試行錯誤したり、考えたりして、捉えなおし、環境との関わり方を深めるようになっていく。

さらに、幼稚園教育要領解説第2章 第2節3〔内容〕(2)では、幼児が環境と関わることについて以下のように書かれている。

(前略) さらに、遊びの深まりや仲間の存在は、幼児が物と多様な関わりをすることを促す。幼児が周囲にある様々な物に触発されて遊びを生み出し、多様な見立てを楽しむと、その遊びに興味をもった仲間が集まり、新しいアイデアが付加され、その物の性質や仕組みについて新たな一面を発見する。その発見を生かして更に遊びが広がり、深まるといった過程を繰り返す。(下線は本研究による)

これらのことから、幼児は、幼児なりの見方・考え方を働かせて、環境と多様に関わる中で、環境との関わり方を深めていくことが分かる。そのような過程を繰り返す中で、新しい考えに出合う等、興味・関心が広がり、試してみようとする姿や自分なりに今までの経験を活用しようとする姿が見られると考えた。そこで、本研究では、幼児が様々な環境に対して何かに気付いたり、考えたことをやってみようとしたりすることや、さらに環境へと関わろうとする意欲が高まっていく姿を「幼児が環境との関わり方を深めていく姿」として捉えることとした。

(2) 「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」について

幼稚園教育要領解説にも示されているとおり、幼児は、環境との相互作用によって発達に必要な経験を積み重ねていく。そのため、幼児が思いや考えをもって自分なりに環境と関わり、その思いや考えが変化することによって環境と関わる姿も変わっていくのではないかと考え、その変容を「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」として、図1のように示すこととした。

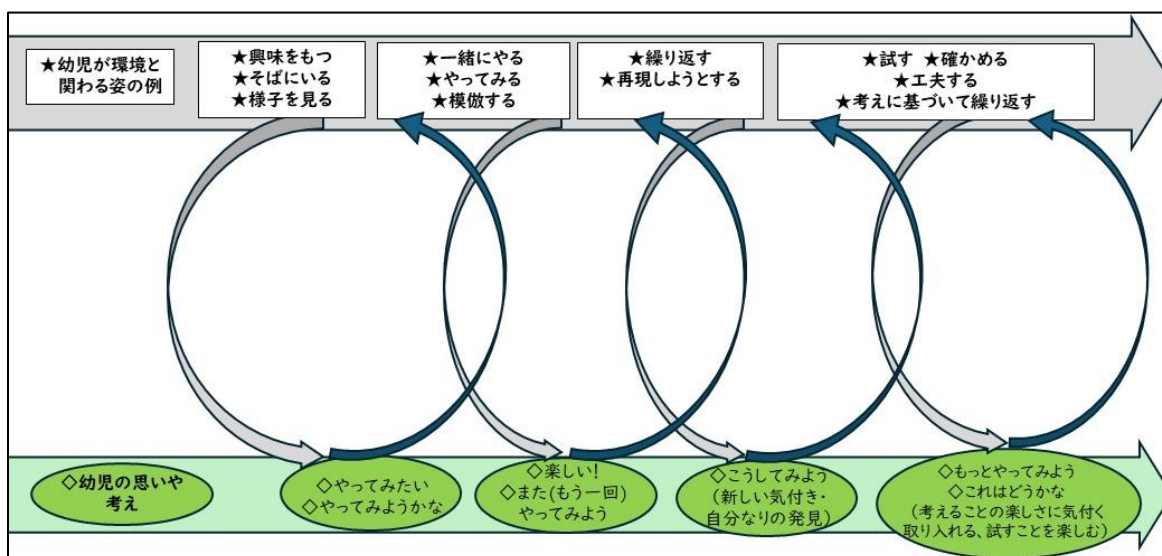


図1 幼児が環境との関わり方を深めていく過程

図1に示したとおり「幼児が環境と関わる姿」と「幼児の思いや考え」が変容する過程を教師が見取り、幼児の実態及び興味・関心を適切に捉えた上で、更なる変容につながるような援助や環境の工夫を行うことが大切だと本研究では考え、検証保育を行った。

IV 検証保育

1 3年保育 4歳児 9月中旬

<検証内容>

幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿を、図1を用いて捉えた上で、思いや考えをもち続けながら環境に関わっていくために有効な教師の援助について探る。

<A児の実態>

- ・ 様々な環境に興味をもって関わる中で、「こうしたい」という願いをもち、イメージしたように遊びを展開するためにはどうしたら良いか考え、工夫して遊ぶ姿が見られる。
- ・ 自分の思ったようにならない時に、他者から「失敗した」と評価されることを気にして、対象に関わることをやめてしまうことが多い。

<A児のねらい>

- ・ 「流し素麺ごっこ」を繰り返し楽しむ中で、自分の思いや考えを確かめたり、工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。

<当日の記録と分析>

・教師がねらう幼児の具体的な姿

◇幼児の思いや考え ・具体的な思い	★環境への関わり方 ・幼児の姿	援助のポイント ○具体的な手だて ●環境の工夫
<p>「流し素麺ごっこ」をしたいという思いをもち、段ボールで流し素麺台を作った後、紙紐を素麺に見立てて「流し素麺ごっこ」を始める。紙紐がうまく流れないこともあったが、自分なりに長さを変えたり、向きを変えたりして、紙紐が流れるように工夫しながら遊んでいた。そこへ、他の幼児も遊びに加わり、三人で遊び始める。</p>		
<p>◇やってみようかな ・紙紐をきれいに置いたら流れるかもしれない。</p> <p>◇またやってみよう ・紙紐を流れるようにしたい。</p> <p>◇こうしてみよう ・短くしたらうまく流れたな。同じ様にしたらできるかもしれない。 ・紙紐が長すぎると絡まったり、途中でひっかかったりしてしまうな。 ・紙紐は短いと流れることに気付く。</p>	<p>★興味をもつ ・紙紐が流れずに困っている友達の様子に気付く。</p> <p>★友達と一緒にやってみる ・紙紐を流すことができた経験を思い出しながら、考えたことを伝える。</p> <p>★再現しようとする ・紙紐をきれいに置いてみるが流れないので、自分なりの仮説を立てる。</p> <p>★試す・確かめる ・仮説を話し、実際にやってみせる。 ・仮説に基づいて繰り返し紙紐の長さや向きを調節して流す。</p> <p>★考えに基づいて繰り返す ・短い紙紐を繰り返し流す。</p>	<p>見守る ○自分の考えを伝えようとするA児の姿や友達の役に立とうとする思いを認め、見守る。</p> <p>受け止める 引き出す ○思いを受け止めたり、「流れるかな？」と疑問を投げかけたりして、行動を引き出す。</p> <p>場を整理する ●A児の試していることがはっきりと分かるよう、周囲に知らせて他児の動きと一時的に分離することで場を整理する。</p> <p>見守る 認める 共感する ○そばで見守り、試したことやA児の気づきを具体的な言葉で認める。また、思ったように紙紐が流れた嬉しさに共感する。</p>
<p>◇もっとやってみよう ・自分で考えた方法で、紙紐が流れるようになって(解決できて)嬉しい！ 満足感・充実感</p>	<p>★繰り返す ・友達と一緒に紙紐を流すことを楽しむ。</p>	
<p>◇これはどうかな ・流し素麺台が壊れてしまって困る。 ・壊れないように修理して遊びが続けられるようにしたい。 ・先生に見てほしい。</p>	<p>★工夫する ・自ら流し素麺台を修理する。 ・テープの長さや貼り付ける位置を考えながら修理する。 ・教師に自分がしたことを知らせる。</p>	<p>認める 見守る ○流し素麺台(段ボール)が壊れたことに気づき、修理しようと積極的に動いたことを認め、見守る。</p> <p>手助けする ○壊れた台を直しやすいよう、テープを止め終わるまで台を支える。</p>

<p>◇もっとやってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなでまた遊ぼう！ また自分でできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に対して「張り切って働こう」と声を掛け、紙紐を流し始める。 	<p>共感する 認める</p> <p>○流し素麺ごっこが続けられる喜びに共感するとともに、A児の行動を認める。</p>
---	---	---

<考察>

- ・ 幼児が流し素麺ごっこで、「紙紐（素麺）を流すこと」を十分味わうことができるよう、時間や場を保障していたことが、A児の遊びへの満足感につながった。そして、その気持ちが支えとなり、友達が困っていることについて一緒に考えたり、壊れた流し素麺台を修理したりするなど、困難なことにも主体的に関わる姿が見られたと考える。
- ・ 素麺に見立てた紙紐が上手く流れず、困っている友達の姿に気付いた場面では、教師は本児が思うように紙紐を流して遊んでいた姿を踏まえ、友達の戸惑っている姿に気付くよう具体的に言葉を掛けた。そのことにより、経験を基に課題解決の視点をもって環境に関わろうとするA児の姿が引き出された。また、友達のために役に立とうとする姿に対し、教師が場を整理しながらそばで見守り、具体的な言葉で本児の仮説とその結果を認めたことで、A児が「紙紐の長さを短くすると流れやすくなる」という発見を得ることができ、さらに積極的に遊びに関わろうとする姿を促すことができた。
- ・ 今回の検証保育から、幼児が自分なりに環境に関わるためには、認める、共感する、思いを引き出す、見守りなどの援助が有効であること、また、状況に応じて手助けするという援助も必要であることが分かった。そこで、教師の援助を図1に加え、図2とした。

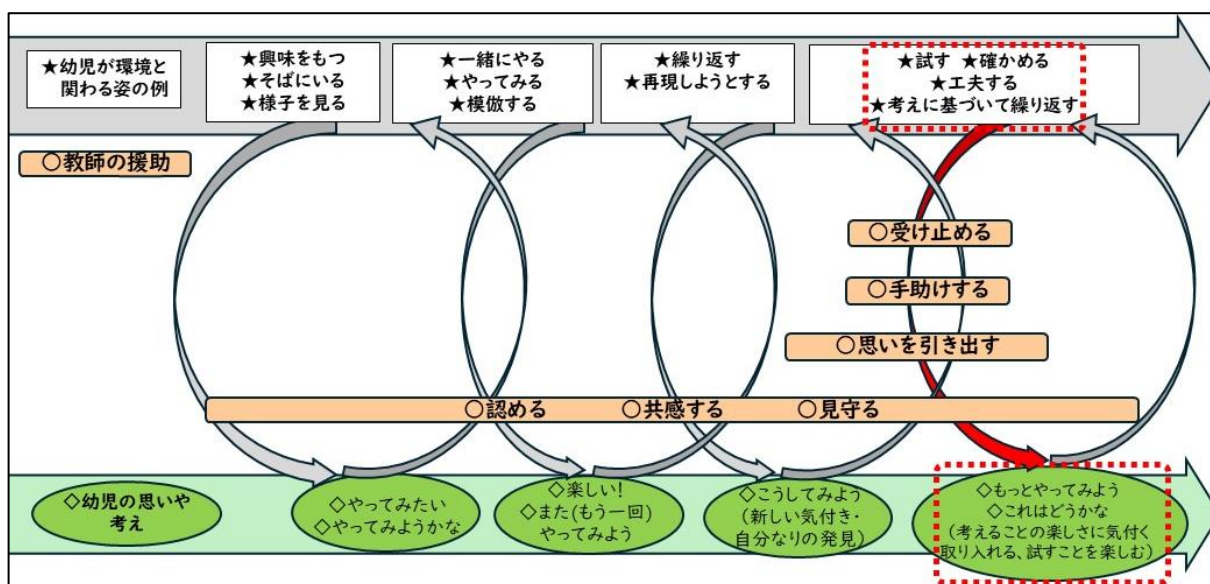


図2 幼児が環境との関わり方を深めていく過程と教師の援助

以上のことを踏まえ、検証保育2では、教師が「もっと主体的に環境に関わってほしい」と考える幼児を抽出し、検証保育1の考察等を基に、幼児の思いや考えの変容に即しながら、援助や環境の工夫を行うこととした。

2 3年保育 3歳児 10月下旬

<検証内容>

検証保育1を通して整理した図2を用いて、幼児の環境に関わる姿を適切に捉えた上で教

師が援助を行い、さらに幼児が自分なりの気付きや新しい考えをもって遊べるようになるための環境の工夫について探る。

< B児の実態 >

- ・ 一学期は、教師と一緒に遊んだり、友達がしている遊びを見たりすることが多かった。二学期の好きな遊びの時間では、これまでに学級のみんが作ることを経験した「製作」を、繰り返し作ることによって安心して作る姿が多く見られる。
- ・ 初めてのことは見ていることが多く、何度か遊びの様子を見た後に自分から遊びに関わろうとする姿が見られる。

< B児のねらい >

- ・ 身近な素材や用具を使って、自分の思いや考えを表して作って遊ぶことを楽しむ。

< 当日の記録と分析 >

・ 教師がねらう幼児の具体的な姿

◇幼児の思いや考え	★環境への関わり方	教師の援助のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の姿 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な手だて ● 環境の工夫
<p>テラスでピクニック遊びをしている途中、「学校に行く」と言って友達と製作コーナーに行く。</p>		
◇やってみよう	★興味をもつ	● 幼児が扱いやすい素材
<ul style="list-style-type: none"> ・ この材料いいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の幼児が画用紙を折ってスマートフォンを作っている様子を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> を取りやすい場に用意しておく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じだ。嬉しいな。 	★やってみる	● 幼児が自分で素材を選
<ul style="list-style-type: none"> ・ 飾りをつけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙や型抜きしてある紙を材料置き場から選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> べるように色や形を複数用意しておく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の真似をして紙を折ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が「友達も同じもの持ってきたね。Bちゃんのがいいなって思ったのかな。」と言うと、友達の画用紙を見る。 	見守る 共感する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙を折ったら、なんだかノートみたいだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 型抜きした様々な形の紙をテープで貼り付ける。 	○ B児の選んだものやしようとしていることを見守る。
◇楽しい！	★模倣する	○ 友達がB児と同じものを持っていることを知らせ、安心して関われるようにする。
◇もう1回やってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の作り方を真似して、画用紙を半分に折る。 	● 互いの遊びの様子が見合える環境にする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいに付けたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達も一緒に同じようなことをしているので、安心してじっくりと遊ぶ。 	● 繰り返し作ることができる材料を十分に用意しておく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のノートができて嬉しい。 	★繰り返す	認める
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つ作り終えても繰り返し作る。 	○ B児が一つ一つ丁寧に作っていることを言葉にして伝える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装飾を変えたり、クレパスの色を変え、円模様等を描いたりする。 	

<p>◇こうしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リボンを付けたいな ・自分のノートができた！満足感・充実感 <p>◇楽しい！</p> <p>◇もう1回やってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでも作れるって楽しいな。 ・素敵なノートができてうれしいな。 	<p>★工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京花紙で今まで作った経験のあるリボンを作り、テープを丸めて両面にして丁寧に貼り付ける。 <p>★繰り返す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったノートを持って、遊んでいたピクニックの場に座る。 ・ピクニックの場にテープとクレパスを持ち込み、クレパスで円模様を足す。 ・場を移る時もノートを持ち続ける。 	<p>価値付ける</p> <p>○以前作った経験のあるリボンを自分で作って工夫する姿を言葉にして伝える。</p> <p>認める</p> <p>○B児が材料を遊びの場に持ち込むことは珍しかったため、「いいこと考えたね。」と認める。</p>
<p>【後日】</p> <p>◇もっとやってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとノートらしくしたいな。 ・(他の幼児が持っていた)ノートみたいに作ってみたい。 	<p>★興味をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で作ったノートを持っている異年齢児の様子を見る。 <p>★工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙を貼り合わせ、複数ページのノートを自分なりに作る。 ・字のようなものを書いて、でき上がると遊びの場に持って行く。 	<p>引き出す</p> <p>●幼児のイメージに合いそうな新しい素材（薄い紙）を用意する。</p> <p>認める</p> <p>○自分の力で自分なりにノートを作り上げた姿を言葉にして認める。</p>

<考察>

- ・ 製作コーナーでは誰が何を作っているのかが見合える環境にしたことで、他の幼児が作っている物を見て「真似して作ってみたい」という新たな考えを取り入れようとしたり、安心して自分から関わったりする姿につながった。
- ・ 幼児が扱いやすく、自分で形や色を選ぶことができる画用紙や折り紙を十分に用意した繰り返し関わるができる環境により、B児はノート作りに繰り返し関わる中で、様々な材料を組み合わせることができ、自分なりに工夫する姿につながった。
- ・ 環境に「繰り返し」関わる中でも、B児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わっていることが分かった。教師は、幼児の変容に気づき、「自分の思いを実現している」「自分なりに身近な素材を使って工夫している」「遊びに必要なものを自分で作る」など発達に必要な経験を捉え、見逃さない（幼児には価値付ける）ことが大切だと分かった。
- ・ B児が友達の作ったものを見て真似をする経験や自分なりのノートを作ることが嬉しいという経験をしたことを教師が見取り、新しい素材（薄い紙）を環境に用意することで、異年齢児の作ったノートを見た際に、「作ってみたい」という意欲につなげることができた。幼児の興味・関心に合わせて環境を再構成することで、幼児が自分なりに環境に関わり、やりたい遊びを実現する満足感や充実感を味わい、次の環境に関わろうとする意欲につながっていくことが分かった。
- ・ 検証保育2で検証した教師の援助と環境の工夫を図1に当てはめ、図3とした。

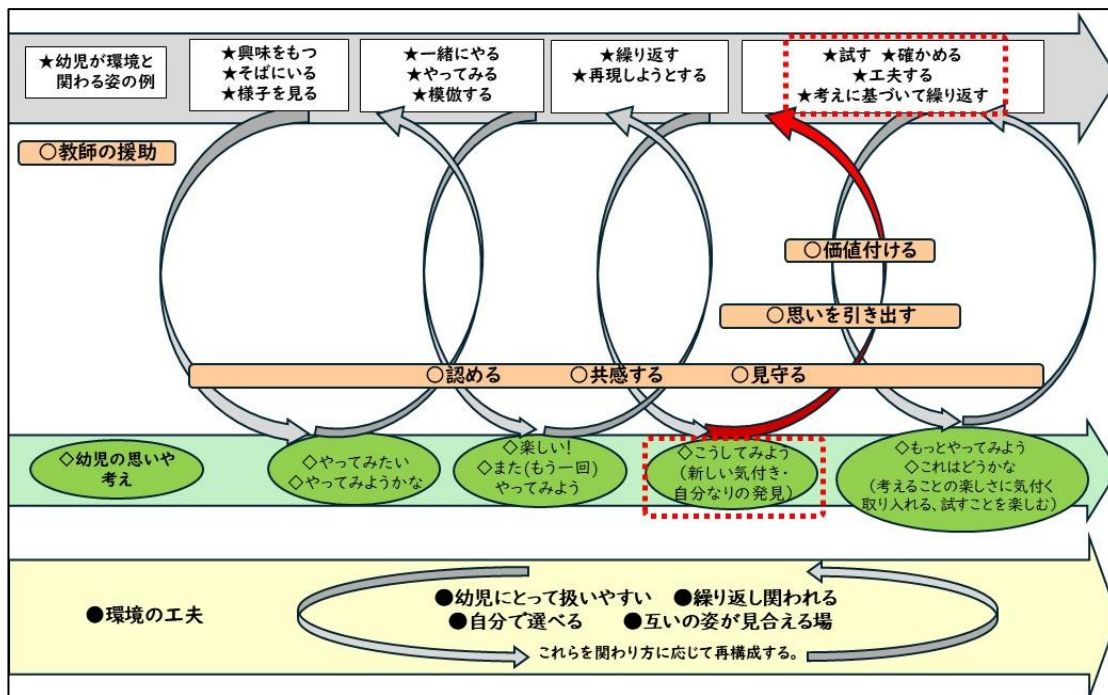


図3 幼児が環境との関わり方を深めていく過程と、教師の援助及び環境の工夫

3 3年保育 5歳児 11月下旬

<検証内容>

検証保育2を受けて、環境への関わり方の過程を適切に捉え、環境と関わる姿の変容につながる具体的な援助や環境の工夫を探る。

<C児の実態>

- ・ 電車が好きな友達とイメージを共有したり、自分が知っていることを活かしたりしながら遊びを進めることを楽しんでいる。
- ・ これまでに経験していないこと、見通しがもてないことがあると自分から動き出すまでに時間を要することもある。

<C児のねらい>

- ・ 友達と一緒に作った新幹線を動かして遊ぶ中で、自分のイメージ、思いや考えをもち、自分なりに力を発揮したり、友達と力を合わせたりして遊びを進める楽しさを味わう。

<当日の記録と分析>

・ 教師がねらう幼児の具体的な姿

◇幼児の思いや考え	★環境への関わり方	教師の援助のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の姿 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な手だて ●環境の工夫
<p>新幹線作りを始めて五日目。大まかに完成したことを喜び、「運転練習」と言って、友達とイメージを共有して新幹線を動かすことを楽しみにしている。</p>		
<p>◇やってみたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できた！動かしたい。 ・ 走らせたらどうだろう。 ・ 楽しみだな。 	<p>★やってみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C児は友達が運転席に座ったことを確認し、「行きまーす」と声を掛けてから新幹線を押す。 ・ 隣の保育室のトンネルを通り、駅に見立てた場に向かう。 	<p>見守る 認める 共感する</p> <p>○目的をもって進めてきたことを認め、完成に近付いた喜びに共感する。</p>

◇楽しい!◇もう1回やってみよう

- ・動かすことができて嬉しい。
- ・イメージ通りに車体が動かさないな。

◇こうしてみよう (気付き)

- ・車体がぶつかったら大変だ。
- ・本物の新幹線が駅のホームに停車するようにしたいな。
- ・駅に向かって動かすにはゆっくり少しずつ動かした方がいいかな。

◇これはどうかな

- ・ホームに車体が近づけるように、動かし方を考えてやってみる。
- ・車体の向きに気を付けたら、止められるかな。

・うまく停車できた!

満足感・充実感

◇やってみようかな

- ・ドアの修理が必要だ。
- ・早く直したいな。
- ・お客さんは乗れないからアナウンスをしておこう。
- ・どうしたらいいだろう。
- ・前も一緒に貼ったらうまくいったんだ!
- ・友達と一緒に直そうかな。

◇こうしてみよう

◇もっとやってみよう

- ・車輪の様子はどうか。
- ・確認が必要だ。

★繰り返す

- ・駅から出発して、トンネルを通過し駅に止まることを繰り返す。

★試す ★確かめる

★考えに基づいて繰り返す

- ・新幹線が駅(積み木)にぶつからないように、何度も細かく車体を切り返したり、ゆっくり動かしたりして駅に近付ける。
- ・繰り返し運転をし、動かし方が分かってくる。
- ・駅に止まる際、どうしても車体が駅(積み木)から離れてしまう。何度も車体を押してホームに近付ける。
- ・電車の向きを調整しながら一度も止まることなくホームまで押すとドアを開けて「到着です」と案内をする。

★様子を見る

★一緒にする

- ・新幹線のドアが外れ、教師の言葉掛けを受けて、「整備工場行き」「この電車は回送です」とアナウンスしながら車体を動かす。
- ・友達がガムテープで修理を始める姿をC児は隣で見ている。
- ・友達に「ここ押さえてくれる?」と言われ、一緒に修理する。
- ・「大事に貼ろうね」と友達に伝える。

★再現しようとする

★考えに基づいて繰り返す

- ・ガムテープを貼り終わると床に寝転んで、車輪の方を覗く。
- ・教師の問い掛けに、「異物がないか点検している」と答える。

引き出す

- イメージをもって動くことを楽しめるよう、トンネルや駅を設定する。
- 幼児の思いやイメージを引き出す言葉を掛ける。

認める

- 楽しんでいることを言葉にして認める。

価値付ける

- C児が自分の考えを試したり、諦めずに何度も繰り返したりする姿を言葉にして意識付ける。
- C児の納得がいくまで試せる場と時間を確保する。

問い掛ける

見守る

- 「どうしましょう」と投げ掛け、友達と一緒に考えるきっかけを作る。
- 必要に応じて言葉掛けができる位置で見守る。

先行経験とつなげる

価値付ける

- 経験を想起させる言葉掛けをする。
- 友達と力を合わせたことでうまくいったことを認め、友達とのつながりを意識させる。

イメージを受け止める

イメージを共有する

- C児の動きの意図を汲み取り、それを言葉にして周囲の幼児に伝える。

<考察>

- ・ C児が自分の思いを実現できるようにするために、やりたいことを存分に試せる場と、納得するまで続けられる時間を保障することが、自分なりに新幹線の動かし方を考えたり、工夫したりする姿につながった。「新幹線が壊れる」という、うまくいかない状況にも、「直したらまた新幹線を本物みたいに動かせる」という前向きな見通しにより、意欲が継続し、主体的に環境へ関わる姿が見られた。このことから、「新幹線を動かすことができ嬉しい」「新幹線を本物みたいに動かすことが楽しい」という各過程での幼児なりの充実感や満足感が次の意欲を生み出していると考えられる。
- ・ 教師が幼児を見守る位置を工夫し、必要に応じて言葉が掛けられる距離で待つことで幼児は自分たちで話し合い、役割を分担したり、問題を解決したりするなど、主体的に遊びを進めていく姿が見られた。教師に見守られている安心感が大切であることが分かる。
- ・ 「新幹線のドアが外れる」という問題が生じた時に、教師も一緒に困ったり、悩んだりする言葉を投げ掛けたことは、友達と一緒に考えるきっかけを生んだ。また、これまでの経験を想起させるような言葉掛けにより、先行経験を活かして友達と力を合わせ、うまくいったという成功体験を積むことができることが分かった。
- ・ 検証保育3で検証した教師の援助と環境の工夫を図1に当てはめ、図4とした。

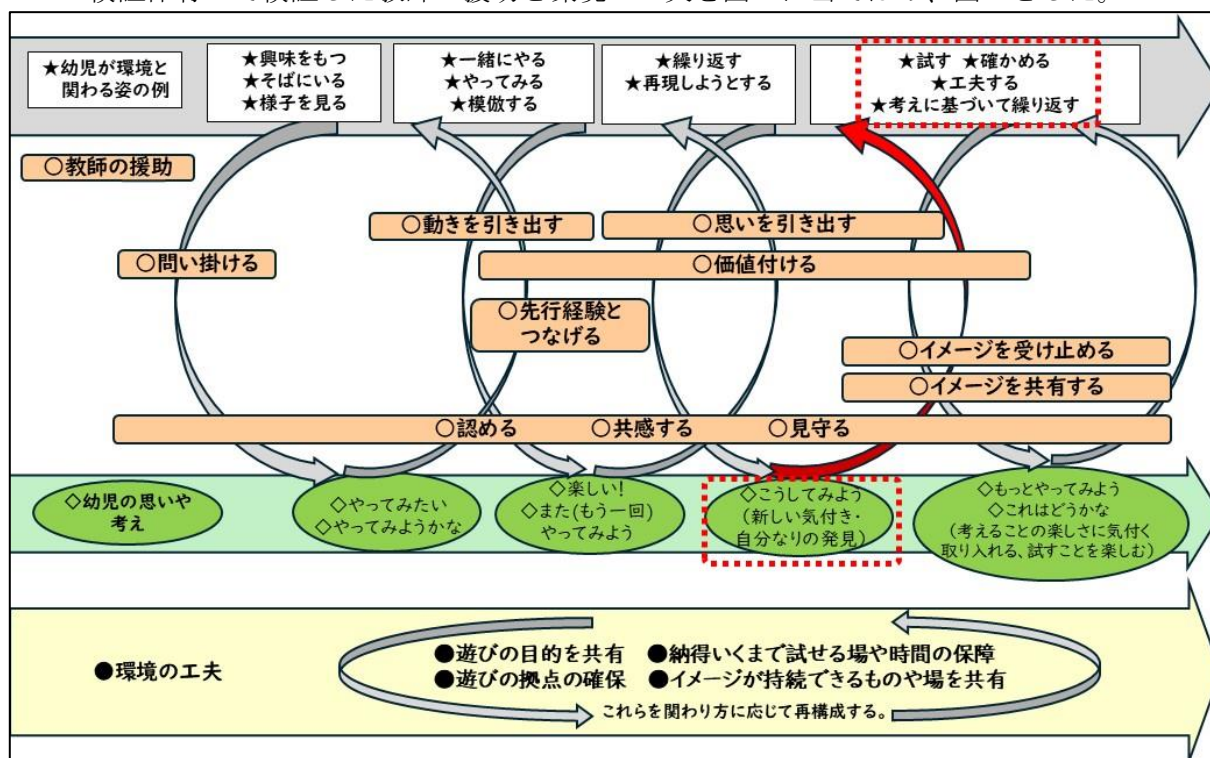


図4 幼児が環境との関わり方を深めていく過程と、教師の援助及び環境の工夫

V 研究の成果

1 幼児が環境との関わり方を深めていく過程を可視化したことについて

幼児が環境との関わり方を深めていく過程を図1のように可視化することで、「幼児の思いや考えはどの過程なのか」「思いや考えをどのように表し、環境との関わりを深めているのか」と図2～図4のように考えることができ、一人一人の幼児の実態を適切に捉えるための

視点を明確にすることができた。

また、幼児が環境との関わりを深めていくためには、幼児の対象に対する「好き」という気持ちや興味・関心をもち、幼児が自分なりに環境に関わったことで得られた充実感や満足感が支えとなっていることを再認識した。そのことにより、「環境と関わることを楽しい」と思う気持ちが培われ、その気持ちが持続することで、環境との関わりを「繰り返す」行為が生まれていた。幼児の遊びが、一見同じように「繰り返す」ように見えても、教師は「幼児はどのようなことを繰り返し楽しんでいるのか」「繰り返すの中に変容は見られるか」「繰り返す中で、何にこだわっているのか」など、その幼児なりの関わり方を丁寧に見取ることが重要である。

2 幼児の実態及び興味・関心を踏まえ、幼児が環境との関わりを深めていくための教師の援助と環境の工夫について

図2～図4として得られた各過程における教師の援助及び環境の工夫について、図5として整理した。このことにより、教師が幼児の遊びに見通しをもって指導できるようになった。

また、教師が幼児の遊びに見通しをもって関わる際、「幼児がより環境との関わりを深めていけるように」という教師の願いが先行し過ぎてしまわないように留意する必要がある。教師の願いどおりに幼児の環境との関わりを導き過ぎてしまい、幼児が自分で環境との関わり方を見いだす機会を奪ってしまう恐れがあるためである。

そのため、教師は、幼児が様々な思いや考えをもって環境に多様にやりながら、どのような思いを高め、どのように環境に関わっているのかを見取り、「どのような経験を積み重ねているのか」と幼児の育ちを捉え、環境を振り返り、発達に必要な経験を得られるように環境の再構成をすることが大切であることが分かった。

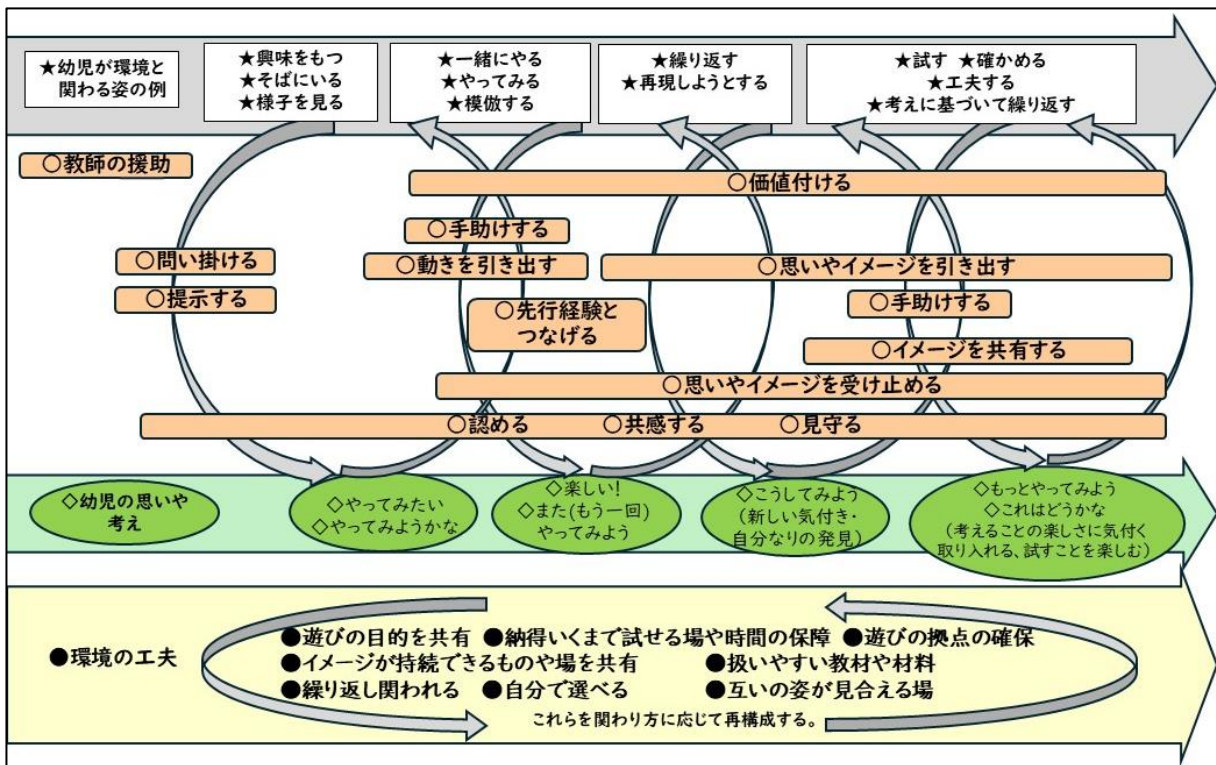


図5 幼児が環境との関わり方を深めていく過程と、教師の援助及び環境の工夫

さらに、幼児が環境との関わり方を深めていくためには、各過程において、教師が幼児にどのように育ってほしいかという願いを含ませ、ねらいを定めていく必要があることから、「幼児が環境との関わり方を深めていく過程」において、思いや考えをもって環境に関わる中で育ってほしい幼児の具体的な姿を、図6「幼児が環境との関わり方を深めていく過程と、その中で育ってほしい幼児の姿」として整理した。

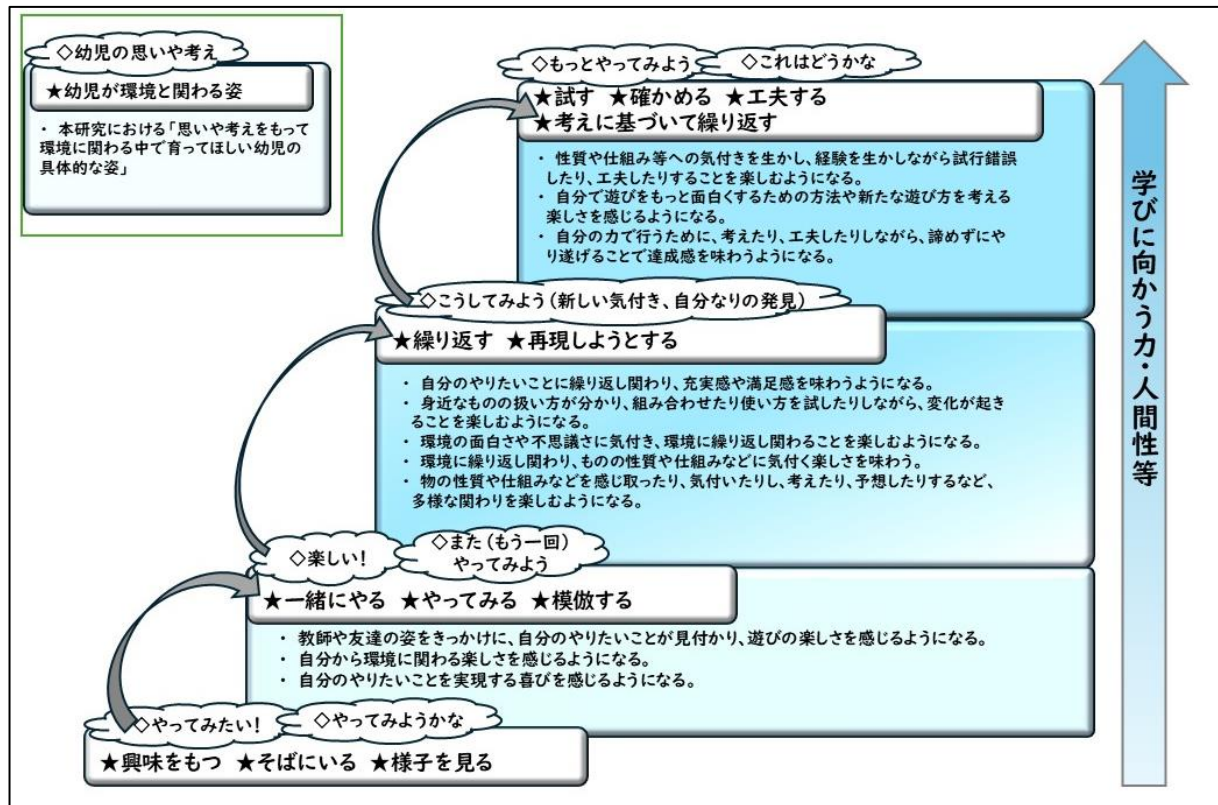


図6 幼児が環境との関わり方を深めていく過程と、その中で育ってほしい幼児の姿

このように、どのような幼児の姿を目指すのかを体系的に示すことで、教師は、各過程での幼児の発達に必要な経験を捉えやすくなったと考える。「思いや考えをもって環境に関わる中で育ってほしい幼児の具体的な姿」は、まさに、小学校以降の生活や学びを支える上で、必要な経験となり、「学びに向かう力、人間性等」を高めていくことにつながると考える。

VI 今後の課題

今回整理した図5の汎用性について、様々な時期や年齢、遊びや活動の場面で検証していく必要がある。「環境」という言葉には人的環境や物的環境、自然環境など様々な環境があり、それぞれが相互に関連して幼児の活動に影響をしている。幼児を取り巻く環境を捉える視点をしぼり、各過程における教師の援助や環境の工夫を分類することで、よりきめ細かな援助や環境の工夫について研究を深めていくことができると考える。

また、図6については、幼児の実態を把握する際に、年齢や発達等に合わせて作成するなど、より活用しやすいものとなるように改善を図る必要がある。

令和7年度 教育研究員名簿

幼稚園

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段幼稚園	教 諭	千 葉 美 穂
千代田区立千代田幼稚園	教 諭	紺 野 夢 羽
港区立麻布幼稚園	主任教諭	野 口 友里江
新宿区立早稲田幼稚園	教 諭	平 間 美 樹
台東区立根岸幼稚園	主任教諭	小 林 万理恵
品川区立城南幼稚園	主任教諭	◎山 本 遼
荒川区立南千住第二幼稚園	主任教諭	高 瀬 杏 子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 鈴木 晶子

令和7年度
教育研究員研究報告書
幼稚園

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6869